

ニッポンハム食の未来財団 2023 年度第二期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	災害におけるアレルギー疾患の患者向けパンフレット作成、配布
フリガナ	シモジョウ ナオキ
申請者（代表者）氏名	下条 直樹
団体名（正式名称）	団体名：特定非営利活動法人千葉アレルギーネットワーク 申請者の役職・肩書など：理事長

1. 活動結果要約

「アレルギー疾患の患者さんのための災害への備えと対応」の冊子を作成し、千葉県内約 100 箇所のアレルギー専門医がいる病院、診療所に送付しました。災害におけるアレルギー疾患の対応～アレルギー疾患をお持ちの方、災害に対応する行政の方、災害医療に従事する方へ～を参考とし、内容については当団体の医師、管理栄養士、看護師、患者家族で話し合いデザインを委託して作成しました。当団体のサイトにも掲載し、無料でダウンロード出来ます。

2. 活動目的

千葉県内では、東日本大震災や令和元年房総半島台風など、大規模な自然災害によって多大な被害が発生しました。これらの災害は地域社会に深刻な影響を及ぼし、特にアレルギー患者にとっては、日常生活や治療に加えて、災害への備えがさらに大きな負担となっています。アレルギー患者は、症状のコントロールや治療に多くの時間と労力を費やしており、災害対策にまで手が回らないことが多いのが実情です。

このような状況を改善するために、医療施設で防災対策に関する情報を配布することが有効であると考えました。医療機関は、アレルギー患者が日常的に通う場所であり、そこで防災対策に関する冊子を受け取ることで、患者が備えを始めるきっかけになると期待しています。具体的にはアレルギー対応の非常持ち出し品の準備、災害時に必要な医薬品の確保など実践的なアドバイスを提供することを目指しています。

また、アレルギー症状のコントロールが災害時の対応にもつながるという観点も重要です。平常時からアレルギー症状をうまく管理できていれば、災害時にもよりスムーズに対応できるでしょうし、そのためには医療機関でアレルギーの管理や対策に関する情報を提供し、患者が安心して日常生活を送れるよう支援することが大切です。

さらに、当団体のウェブサイト情報を掲載することで、広くアクセスできるようにしました。

このように、医療機関での配布とウェブサイトの活用を通じて、アレルギー患者の防災対策を支援し、災害時に備えるための具体的なステップを提供することで、より安全で安心な地域社会の実現に貢献していきたいと考えています。

3. 活動方法

昨年の11月から当団体の理事の医師、看護師、管理栄養士、患者家族で内容を相談したところ計画ではA5サイズ片見出し5面折山4両面10ページでデザイナーに見積もり依頼をしていたが、デザイン案を検討し、ページ数が少ないとごちゃごちゃして見づらい為、A5 12ページに当方の都合で変更した。デザイナーには1月頃から着手していただき、デザイン案を出してもらい修正などを重ねながら3月には印刷を発注し、GW前後でアレルギー専門医のいる医療機関に送付することが出

来ました。その際に冊子は数が限られるのサイトから無料でダウンロード出来るという事がわかるチラシを掲示用に作成し、同封した。

当団体の理事の原 正美先生の働きかけで 5/25, 26 の日本保育保健学会にてチラシ掲示、冊子展示をしました。

また、プレスリリースを行い、メディアに取り上げてもらうことで多くの方に知っていただこうとしたのですが、取り上げていただくことが難しく当団体の活動を以前から知っている朝日新聞の記者にお願いし、7 月にデジタル版と全国紙へ掲載してもらうことが出来ました。

<https://www.asahi.com/articles/ASS6T2DRJS6TTNLL003M.html>

朝日新聞を見たとき連絡をいただき「もしも FES 渋谷 2024」フェスにパネル展示をすることになりました。8/31、9/1 に代々木公園で行うのでどのような反響があるかわかりませんが、昨年の参加者は 22,000 人のようなので少しでも周知出来るかと考えています。

<https://moshimo-project.jp/fes2024>

4. 結果及び波及効果

朝日新聞に当団体の記事が掲載された結果、私たちの活動に対する関心が高まりました。特に、当団体のウェブサイトへのアクセス数が増加しました。具体的には、冊子を掲載しているページのアクセス数が、4 月や 5 月には約 250 件程度であったのに対し、7 月にはおよそ 800 件近くに達しました。この増加は、朝日新聞の記事が当団体の知名度向上に寄与したことを示しており、非常にうれしく思っています。

さらに、今回の冊子の送付先を小児科専門の医師だけでなく、他の専門領域の医師や医療機関にも広げたことが大きな要因だと考えています。その結果、当団体をご存じない先生方や患者さんにも当団体の活動内容や目的について知っていただく機会が増えたと思います。このような広がりを持つことで、当団体の認知度が向上し、多くの人々に私たちの活動が伝わったのではないかと思います。

しかしながら、依然として当団体の活動について十分に知られていない状況が続いています。認知度をさらに高め、より多くの人々に私たちの活動を知っていただくためには、引き続き周知活動

に力を入れる必要があります。具体的には、医療関係者を対象とした情報発信の強化や、患者さん向けの広報活動の充実、また地域社会との連携を深めることで、より広範な認知を目指していきたいと考えています。

私たちは、当団体の活動を通じて、より多くの人々に有益な情報を提供し、社会に貢献することを目指しています。そのためには、周知活動を一層推進し、地域社会や医療界とのつながりを強化することが不可欠です。今後もこの努力を続けていくことで、当団体の活動がより多くの人々に知っていただけるよう努めていきます。

5. 今後の活動について

秋に食物アレルギーの患者さん保護者向けのクッキングのイベントや冬に共催になりますが、食物アレルギーの子ども向けイベントなどがあるので、そこでも今回作成した冊子の普及や当団体の活動、FoodAllergy セミナーや相談事業などの当団体の活動も伝えていければと思います。

以上